

はじめに

“ニート”や“引きこもり”という言葉が一般化し、若者の自立が社会的な課題として認知されるようになって10年近くが経とうとしています。

障がい福祉の現場にいますと、本当は社会で活躍できる力を持ちながら、親と、人と、そして社会とどうつきあっていけばいいのかよくわからないまま、一人で悩み苦しむ、どうしても自立できずにいる人が、そしてそのことに心を痛める家族の方々が、想像以上に多くいることに気づかれます。

発達障がいがある場合、親子ですら互いの意思がなかなか伝わりにくいことも多く、家庭だけで解決することが難しいケースも少なくありません。

札幌市では、発達障がいのある人たちが社会で活躍できるよう、支援の体制づくりに取り組んでいます。この冊子は、発達障がいのある人をはじめ、社会とのつながりをうまく構築できずにいる多くの人々が「止むに止まれず」起こしてしまう行動などに焦点を当て、その感情や行動の背景についての相互理解が少しでも進むよう、そのきっかけづくりとして制作したものです。

自立への道筋や必要とする時間は人によって様々ですが、当事者にとっても、その家族にとっても、「わかってもらえる」、「一人じゃない」、「支えてくれる人がいる」といった人同士のつながりが最も重要であると思います。この冊子が、発達障がいのある人やそれを支える人々の“つながり”を模索する糸口となれば幸いです。

札幌市保健福祉局 就労支援プロジェクト

登場人物の紹介

虎夫さんは自閉症、卷子さんはアスペルガー症候群といった広汎性発達障がいの診断を受けていますが、現在とある職場で活躍しています（※詳細は「職場で使える虎の巻」（札幌市）参照）。

しかし、以前のこの2人は…。



虎夫さん

虎夫さんは、他の人との感覚の違い等から、うまくいかないことが多く、不安に思っていました。

また、お母さんも虎夫さんへの対処方法がわからず、困っていましたが、周りに助けを求め、アドバイスをもらい、あらためて虎夫さんと向き合うことができました。

そうすると徐々に虎夫さんの気持ちにも変化が!!



卷子さん

卷子さんは、アルバイト先でうまくコミュニケーションがとれなかったり、家庭では家族との程良い距離感をはかれなかったりと、両親はとても心配していました。

そんな時、ある相談員と出会い、卷子さんとどのように接していけばいいのかがわかりました。

そうすると徐々に卷子さんの気持ちにも変化が!!

この虎の巻は、当事者の方たちの体験談を元に、発達障がいの診断を受けるまでに、

家庭等でトラブルになりがちな“認識の違い”を **ギャップ!!** として表現し、

その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!** として示しています。

双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!** という好結果につながります。

暮らして使える

「虎の巻」もくじ

●虎夫さん編

虎の巻 分かち合い

その一 経験を共有すれば安心度アップ …………… 4



虎の巻 感じ方の違い

その二 違いに気づけばわかり合える …………… 6

虎の巻 つながり

その三 仲間と出会えば希望がうまれる …………… 8

虎の巻 自己決定

その四 選んで決めれば気力充実 …………… 10

●卷子さん編

虎の巻 相談相手

その五 相談できればいつでも安心 …………… 12



虎の巻 受け応え

その六 コツがわかれば勇気百倍 …………… 14

虎の巻 想像力

その七 期限を決めれば現実に目覚める …………… 16

虎の巻 自立への一歩

その八 離れて暮らせばほどよい距離感 …………… 18

多様なつながりがみられる社会へ …………… 20

札幌市内の相談窓口 …………… 22

※今回は、自閉症、アスペルガー症候群といった広汎性発達障がいの診断を受ける前の方たちの保護者の対処方法を中心に制作しました。